

報告番号 3号
2025年 3月30日

根室市議会議長 様

政務活動報告書（会派用）

会派名 市政クラブ

代表者名 工藤 勝代

区分	<input type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 研修 ・ <input type="checkbox"/> 広報 ・ <input type="checkbox"/> 広聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会議
活動テーマ・目的等	ジェンダー平等を基礎から学ぶ FIFTYS PROJECT ゼミ オンライン版
期間	令和7年 9月27日（土）～令和8年3月28日（土）
参加者氏名	工藤 勝代
応対者	第0回9月27日オリエンテーション 第1回10月25日福田和子（東京大学ジェンダー・エクティ推進特任研究員） 第2回11月22日井田奈穂（一般社団法人あすには代表理事） 第3回12月27日井谷聡子（関西大学文学部教授） 第4回1月24日小安美和（株式会社 WillLab 代表取締役） 第5回2月28日上野千鶴子（社会学者、東京大学名誉教授） 第6回3月28日平田仁子（気候政策シンクタンク ClimateIntegrate 代表） アーカイブ配信となっており、日程の合わない場合は後日に講義を聴くことができ、繰り返しの聴講ができた。
場所	オンライン配信
行程（概要）	根室市内

<p>内容・成果等</p>	<p>第3期ジェンダー平等を基礎から学ぶ FIFTYS PROJECT ゼミは政治分野のジェンダー不平等や無意識のジェンダーバイアスが成り立ってきた歴史的背景、また、スポーツ、福祉制度、気候変動等においてもジェンダー不平等がどのように影響しているのかなどをデータや専門家の講義で学ぶことができる講座です。オンライン配信を見てから参加者の交流会を設定しており男女共同参画センターを持つ市町村では交流会も可能ですが、根室市での受講のためオンライン配信のみで受講しました。</p> <p>第1回「すべての人の SRHR（性と生殖に関する健康と権利）を保障する社会へ」 戦前の法律では姦通罪、性であれば女性の避妊薬の認可は長期間が必要であったが、男性の性の悩みを解決する薬はすぐに認可が通ることになったのはなぜか等、男性中心の政治的背景や過去の法律の歴史を含め学ぶことができました。</p> <p>第2回「選択的夫婦別姓から考える、政治に根付く家父長制」 選択的夫婦別姓は日本の女性運動家が長らく声を上げてきたにもかかわらず、なぜ実現しないか？法制化に向けた議員陳情や理解促進への活動の歴史や国連が4度にわたって改善勧告があっても日本の政治が選択的夫婦別姓を実現できないでいる背景についてなども学びました、姓を変えることで研究職はじめ、姓を変えた女性だけがうけるデメリット、姓を変える多くの経費とリスク、また個人的背景で姓を変えず事実婚を選び、苦しむ女性の現状がありました。姓の変更経験が無い男性に理解を願いたいと強く感じました。</p> <p>第3回「スポーツから考えるジェンダー・セクシュアリティ」 学校の女子の部活からオリンピックのような国際競技まで、スポーツ界は女性が差別され、ジェンダーバイアスが多くあります。各競技に女性部門ができることになった歴史までを学びました。女性のオリンピック競技が増えたのは1980年以降、特に「1984年女子マラソンがスタートしたがそれまでの間「女性に長距離は無理」と言われていた」との内容に驚きました。今はスポーツ競技の女性部門は増え続ける中、性的マイノリティの方がオリンピックで出場することの大変さも知ることもになりました。</p> <p>第4回「地方から考えるジェンダーギャップ」 まちづくりの中心にジェンダーギャップの視点を据えることが重要でありその理由や兵庫県豊岡市、宮城県気仙沼市、富山県南砺市などでのジェンダーギャップ解消の取り組み事例や職場改革、働き方改革について学ぶことができました。</p>
---------------	--

第5回「どうなる、介護保険？ジェンダーと政治の視点から」

介護保険が生まれた背景に「家父長制の中で介護の仕事が家庭の女性が無報酬で行うものである」という認識の歴史から、介護保険という「介護はみんなが担うもの」に変えてくれたお話が印象的でした。女性の先輩が法律や制度の分野で動いたことが大きな力となっていたことを知りました。しかしながら、現在、介護保険を守るためにその経費をめぐっての世代分断をあおる論調や税金の持ち方などを含め、どのように若い世代と高齢者が連帯していくことができるのかも重要であり、介護保険や社会保障制度を今一度基礎から学ぶ必要を強く感じ、良い勉強になりました。

第6回「気候変動とジェンダー」

気候変動解決をしたいと思いこの仕事を選んだ女性講師の方は気候変動が起きるたびに、ジェンダー不平等と貧困の立場の人がさらに厳しい立場になることに課題を感じ、同時に、地球温暖化やエネルギーの在り方について調査すると女性の方が男性より意識が高い人が多いという結果も得て、意思決定の場面で女性が多いことが気候変動を意識した政策の推進やアイデアなどの良い影響があるとのお話が印象的でした。気候変動からの災害は常に女性や弱いものを更に苦しめる、だからこそ「気候変動分野×ジェンダー」二つの取り組みの統合の重要性を知ることができました。

様式 4

報告番号 2号
2025年 3月30日

根室市議会議長 様

政務活動報告書（会派用）

会 派 名 市政クラブ

代表者名 工藤 勝代

区 分	<input type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 研 修 ・ <input type="checkbox"/> 広 報 ・ <input type="checkbox"/> 広 聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会 議
活動テーマ・目的等	
期 間	令和8年 2月8日（日）～令和8年2月17日（火）
参 加 者 氏 名	工藤 勝代
応 対 者	第45回研究集会は「保育の新たな展望を切りひらく」困難な現状をみすえつつとのテーマで行われた 2月8日講師逆井直紀、浜田真一他（全国保育研究所） 2月12日堀尾輝久（東京大学名誉教授） 2月14日児美川孝一郎（法政大学）山崎直子（東京都公立小教師） 2月17日長瀬美子（大阪大谷大学）土田明子（大阪／あおば福祉会）
場 所	オンライン配信、録画視聴講座
行 程（概要）	根室市内
内 容・成果等	第45回研究集会は「保育の新たな展望を切りひらく」困難な現状をみすえつつとのテーマで行われた 2月8日（日）保育政策の動向と「こども誰でも通園制度」 保育における国の政策と現場への影響について、保育制度、保育指針改定論議について、保幼小接続プログラム、虐待防止など。 京都市営保育所における乳幼児等通園支援事業の状況 新しい制度の基本知識を学び、さらに深く知ることができた、根室市は保育環境は恵まれており、待機児童もいない状況であるが（0歳は時期によっては待機となることもあるが）他地域は保育の環境が厳しい中であり「子ども子育て支援制度」ができてから市町村が計画づくりに従事し、当事者任せになりつつある制度の現状を現場

の意見として聞くことができた。

保育のめぐる直近の政府予算の案として、保育士配置基準の3歳児の年齢配置基準の変化、21人～40人の保育所等の調理体制の人員増の状況、ICT推進加算、障がい児保育の充実のための専門職の活用（保育士みなし特例）など新制度を学びました。

5時間にわたるオンライン聴講ですが、事例が多く地域の違いを学ぶことができました。

2月12日「こどもの権利と憲法9条」 保育に係るベテランも新人も、こどもの権利について学ぶことをテーマとしており、こどもの権利、こどもの人権、人権、それぞれに違いがあることなど大人として子どもへの視点に欠けている部分を見つけることができた気がします。子ども期を体験する権利（食べたい、遊びたい、もっと知りたい、安心、ぬくもり、居場所）子ども期である子どもの時代にあるべき人間としての権利、すべてに通じる人権、区別して考え切り分けたときに子ども達のふさわしい環境を考える力となると思います。大変難しい倫理的な講義でしたが、今言われる will-beingこそこどもの権利条約にふさわしい言葉なのに、日本語に訳すと福祉という意味になってしまうそうです。訳さないで使うのがベストとのことでした。

2月14日「教育改革」の動向と小学校における豊かな育ちと学び

学校のデジタル化、オンライン、デジタル教材、AIドリルは個別最適の学びとして推進されております。私自身迷いなくこれからの子ども達には必要なものと考えておりましたが、講義の中では「学校教師の削減」「産業界に役立つ人材育成」「公教育を市場として開放」「安上りな教育の構築」というお話の中では、首をかしげる部分もありましたが、GIGAスクール構想は経産省が押し進めたお話を伺うと、教育現場が市場として狙われることは一理ありと思った次第です。

2月17日「保育の側から小学校との接続・連携を考える」

乳幼児期から児童期への「かけはし期」をどのようにとらえるかのテーマは5歳児と小学校1年生のカリキュラムを1対的にとらえる手法として今教育関係者が連携して進められているようで、モデル地域での実践などがありました。

数日にわたり、長い時間のオンライン研修でしたが知ると知らないでは大きな違いがある内容が多く、事例が根室市として入っていく状況を見据えた参考となる研修でした。

報告番号 1号
2025年 3月30日

根室市議会議長 様

政務活動報告書（会派用）

会派名 市政クラブ

代表者名 工藤 勝代

区 分	<input type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input type="checkbox"/> 研 修 ・ <input type="checkbox"/> 広 報 ・ <input type="checkbox"/> 広 聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会 議
活動テーマ・目的等	北方領土アピール行動参加、領土・主権展示館視察、 北方領土展（新宿西口）視察、要請活動（北海道選出国會議員）
期 間	令和7年 11月29日～令和7年12月2日
参 加 者 氏 名	工藤 勝代、中村久、阿部秀子
応 対 者	11月30日領土・主権展示館（解説員 松本二郎） 12月1日北方領土アピール行動、要請活動（対応：北海道選出国會議員32名、不在の方は秘書対応・ポスト投函）
場 所	11月30日領土・主権展示館 12月1日銀座ブロッサム中央会館、新宿西口広場
行 程（概要）	11月29日 根室市→中標津空港→羽田空港→東京都内 11月30日領土・主権展示館 12月1日銀座ブロッサム中央会館、衆参議員会館、新宿西口広場 12月2日東京都内→羽田空港→中標津空港→根室市
内 容・成 果 等	11月30日 領土・主権展示館 日本の領土・主権、特に北方領土・竹島・尖閣諸島に関する事実や日本の立場に関する正確な理解を国内外に浸透させていくための発信拠点として2018（平成30）年1月に開館し、2020年（令和2）年に虎ノ門に移転した国立の施設です。 複雑な世界情勢の中日本の領土・領海・領空を断固として守り抜くとの方針に基づき、日本は領土・主権をめぐる情勢についてどのように対応すべきか、領土・主権展示館への来館が考える機会となることを目的に設置されています。 館内はパネル展示をはじめ、13台のプロジェクターを用いた5面

CG映像を床・壁・天井に北方領土・竹島・尖閣諸島の自然を投影し圧倒的な迫力を演出で島の様子や歴史を知ることができます。イマーシブシアターはぜひ根室の北方領土の展示等がある建物に欲しいものであり、北方館等、老朽化しており新築の機会を見据えて導入していきたい施設でした。



北方領土・竹島・尖閣諸島の展示が行われている



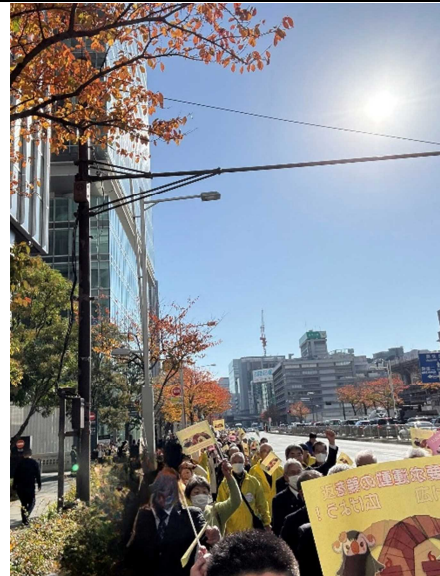
イマーシブシアターの様子、3G映像が天井から床、壁一面に投影されてその場にいるような臨場感がある映像と音響の中わかりやすい説明でそれぞれの歴史と日本主権の認識を説明してくれる仕組みとなっている。

12月1日北方領土アピール行動

銀座ブロッサム会館での開会式からスタートし、会場から銀座方面へアピール行進が行われ、全国で北方領土返還要求運動に尽力いただいている方々、鈴木北海道知事、道内選出の国会議員、北海道議会議員、全国の連合の皆様、根室市議会、約500名がそれぞれの返還要求への思いをひとつに行進となりました。ハチマキが今年からステッカーへ変更され、好評でした。ハチマキをしてこぶしを突き上げるといったアピールは「デモ行進」とみなされて近年は逆に興味を持たれない状況を呼ぶことがあり、行きかう方に「がんばれ！」と手を振り応援していただける行進にしていく必要もあり、今後も国民の興味や理解を増やすことのために工夫が必要と思いました。

アピール行動の後、道内選出の参議院、衆議院を伺い、元島民の方の願いである北方四島への墓参をはじめとする、要望書をお渡しました。

国会議員の皆様は参議院本会議、委員会、地元での活動などもありお会いできた方は少ないながらも、各議員秘書の皆様にご親切に対応いただきました。



北方領土展（新宿西口広場）

新宿西口広場での北方領土展 in TOKYO では毎年北方領土クイズがありクイズに答えると根室管内の物産がプレゼントされます。根室市の歴史と自然の資料館からは剥製の展示があり、根室の自然豊かな環境に注目する方が多く立ち寄り学芸員の説明を受けておりました。エリカちゃんとエリオくんが人を集めるため活躍していました。日曜日で、会場の来客数も多く感じました。

